

東アジア研究科プロジェクト研究の成果発表に寄せて

大学院東アジア研究科 横田伸子

山口大学大学院東アジア研究科では、その特色ある研究活動として、多様な専門分野や地域について研究する研究者による学際的な「プロジェクト研究」が行われている。現在、プロジェクト研究は、「東アジアの教育におけるグローバル化と伝統文化」、「東アジアにおける文化伝承の研究」、「東アジアにおける医療供給体制と企業の役割」、「東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的・実証的比較研究」の4つの共同研究から成り立っている。

このうち、「東アジアに固有の格差の実態と推移に関する総合的・実証的比較研究」（研究代表者：植村高久、塚田広人、横田伸子）は、2009年度から始まった「東アジアにおけるグローバリゼーションと格差社会」の研究を端緒として、継続的にその規模と質を発展させてきた。その成果を最初に世に問うたのが、2010年12月11日に、東アジア研究科主催で開催された東アジア国際学術フォーラム「東アジアにおける格差拡大と諸問題」である。さらに、同フォーラムの成果を一冊の本としてまとめ刊行されたのが、山口大学大学院東アジア研究科東アジア研究叢書①『東アジアの格差社会』（御茶の水書房、2012年8月）である。

同書では、グローバリゼーションの進展にともなう、日本、韓国、中国における社会的格差拡大について、社会的排除、雇用の非正規化、医療保障の側面から焦点をあて、その実態と構造をそれぞれの地域を研究する研究者が社会経済の深みから明らかにしようとした。また、これらの問題に対して、各国政府がどのような社会政策を講じ、市民運動や労働運動がどのような運動を展開しているのかも同時に考察している。

このプロジェクト研究は、現在も進行中で、次々と新しい研究成果を生み出している。次に掲げる袁麗暉「中国農民工医療保険制度に関する一考察—山東省済南市農民工を対象とするアンケート調査を中心に—」もその一つで、袁が上掲書のために執筆した「中国の医療保険制度における医療格差の是正に向けて—効率追求から公平性重視へ—」の続篇ともいえるべきものである。とくに、この論文では、「中国の医療保険制度における医療格差の是正に向けて」で詳しく考察することができなかった、中国農民工の医療保険制度の問題点を、袁が山東省で行った農民工に対するアンケート調査をもとに、具体的かつ詳細に論じている。

このように、山口大学大学院東アジア研究科では、プロジェクト研究の成果を次々と公表することによって、日本における東アジア研究の新たな展開を牽引し、東アジアの現代的な課題の解決に資するような研究教育活動を活性化させようとしている。その一環として、まず、『東アジア研究』にプロジェクト研究の成果を発表するものである。